



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2026年2月1日発行

第158号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL https://www.mimihara.or.jp (同仁会HP)

みみはらグループ
2026年

新年集会 命と人権、 平和を守る 運動

1月10日、フェニーチェ堺にて、みみはらグループ新年集会を開催しました。職員、友の会の方々など、会場とオンラインあわせて約300人が参加しました。



ご講演された岡真理教授

江戸道子会長は、地域住民の立場から、国民の生活を顧みない現在の政治に対する思い、地域医療を守る活動について述べられました。そして、地域医療を守る署名活動への積極的な協力への感謝と、最後に今後ともに歩んでいきましょうとご挨拶をいただきました。

社会医療法人同仁会
・森高志専務理事からは「2026年基調報告」として、老健みみはらの黒字化や署名による30年ぶりの報酬大幅増額を報告。放射線治療導入等の機能強化を進め、「命と平和の碑」設置運動を通じて



記念講演は早稲田大学文学学術院文化構想学部・岡真理教授から、「ガザのジェノサイドは終わっていない—ガザの「ジエノサイド」とは何か」と題し、お話をいたしました。

2025年10月10日停戦合意発効以降も400人以上が殺害、死が自動的に大量生産されており、ガザの人道的危機は人為的に設計されたものである、というショッキングな内容が語られました。問題の根源は、入植者植民地主義という構造

2025年10月10日停戦合意発効以降も400人以上が殺害、死が自動的に大量生産されており、ガザの人道的危機は人為的に設計されたものである、というショッキングな内容が語られました。問題の根源は、入植者植民地主義という構造

社会保障と平和を大切にする地域づくりを推進する方針を説明していただきました。



同仁会・田端志郎理事長



同仁会・森高志専務

院・川畑望事務長からは、辺野古支援行動報告・名護市長選支援の訴え、ついで

社会福祉法人ひまわり会・八田友常務理事から事業報告がありました。

最後に、社会福祉法人ひまわり会・岡本裕宏理事長より閉会の挨拶をいたしました。閉会となりました。

お知らせ
4月号から紙面リニューアル

『同仁会報みみはら』は、創刊以来続いたスタイルを見直し、より読みやすい紙面へと生まれ変わります。これからも、みなさまにとって身近でわかりやすい情報をお届けできるよう努めてまいります。新しくなる『同仁会報みみはら』を、どうぞお楽しみに！

ガザの実情がよく解った。平和とは「構造的暴力」「文化的暴力」が無い事には大いに納得しました。小さな一步を進もう、無言であることは加担することと言われており、衝撃的な内容でした。あまりにも知らないことが多く、無知であることも一緒に思つた。まず正しく知ることが必要だと思った。

ガザのジエノサイドについてテレビで報道しているものと実際に起こっていることが違っていて戦争の悲惨さについて改めて実感しました。

ガザのジエノサイドについてテレビで報道しているものと実際に起こっていることが違っていて戦争の悲惨さについて改めて実感しました。

ガザの問題は、国際社会が長年に渡って自分たちで解決できない問題をパレスチナ人へ押し付けた結果だということを知ることができた。また、パレスチナの人々を一人の人として見ようとしたイスラエルの狡猾な政策にも憤りを感じた。今日の国連の機能不全の原因にも繋がると思つた。

報道規制の中、今起こっていることを知り驚愕している。停戦のうちにいるジエノサイドが続いていることを知り、本質の和平について知ることが大切であり、歴史的背景を知り学ぶことで眞の和平を考えさせられた講義であった。

入植者植民地主義という言葉で、今まで複雑な宗教戦争くらいの知識だった中東問題の本質を、やっと理解できた気がします。ハマスは何となく怖い集団だとと思っていた認識も変わりました。今後のニュースの見方が変わりそうです。